



みずみどり

2021年 6月1日

第144号

発行：いたばし水と緑の会事務局

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会  
<http://mizumidori2.eco.coocan.jp>E-mail : [mizumidori@nifty.com](mailto:mizumidori@nifty.com)

〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 090-1423-9894

# 城址の魅力とバッタ広場

コロナで遠出ができなくなり、城址に来る家族連れが多くなりました。森に囲まれた明るい草場で、お弁当を食べ、子ども達がボール遊びをしたりして楽しそうです。電車で遠くまで行かなくても、近くに自然豊かな公園があるのは幸せです。ごろんと仰向けになって城址の森に縁取られた空を見上げると最高です。

城址のはずれにバッタ広場があります。

4月にバッタ広場の看板を新しくしていただき、会報を入れるポストを取り付け、掲示内容も新しくしました。そういえば、バッタ広場の自己紹介もしていなかった。ので、「ここはバッタ広場です。生き物達の草原です」と表示しました。

それから水とみどりの会からのメッセージも書きました。

生きものをとらないで。

- 観察したら元の場所にもどしてね。
- 生きものは自然の中で食べたり、食べられたりして生きています。
- そして自然の中で卵を産み次の世代につないでいきます。
- 生き物達の暮らしも大切にあげましょう。



看板を読んで下さる方、子どもに読んで聞かせたり、説明したりする人も見かけます。うれしいです。バッタ広場はわずか650~700㎡。虫は取ってもどんどん湧いてくるものではありません。バッタ広場を大事にしてくれる仲間が増えることを願っています。

## まちのオタマジャクシ達は怎么样了か

トンボ池では10年以上オタマジャクシからカエルになるまで見とどけたことがありません。よそでは、オタマジャクシは怎么样了か、聞いてみました。



### 猪鼻さんの話（徳丸自宅の睡蓮鉢）

我が家のオタマは今朝最初の1匹がスイレンの葉に上がりましたが、近寄ると又水に潜ってしまいました。間もなく上陸ですね、2鉢で数十匹いるのではないでしょう

か。まとめて紅梅小裏の林などに放そうと思います（5月17日記）。



### 不破さんの話（自宅の池）

カエルさんの件ですが、うちは残念な結果でした。産卵には来たのですが、オタマジャクシにはならず終わりました☹️何が原因なのかわかりません。寂しいのでヒメダカ購入しました。カエルさんは今でも時折姿を見せてくれます。痩せっぼちの豆蛙🐸さんに会いたかったなあ。

### 友子さんの話

「トンボ池のオタマジャクシで大騒ぎするけど、西台緑地の池に真っ黒になるほどいましたよ」（3月27日）。「じゃあ、まだいるか見てきて」とお願いした4月24日、電話があり「1匹もないの。信じられないー」。

### 瀬田さんの話

「見次公園の人工池にもオタマジャクシがいたよ」（4月20日）とのこと。未だいるか見てきて、とお願い。「4月22日に見たら1匹もいなかった。無事にカエルになるのは大変なことなのですね」

### 清水さんの話

毎年オタマジャクシがいっぱいいるという前谷津川緑道の池 5月の連休中に行ったらいなかった。卵を産まなかったかもしれないけど。

### 赤塚植物園

毎年植物園の池に真っ黒になるほどオタマジャクシがいるという話を聞きます。今年3月末行ってみましたが見当たりませんでした（坂本）。

### 紫垣さんの話

4月初旬に①赤塚新町公園の人工のせせらぎ、と②光が丘公園わきのほうにあるため池（水たまり状態）にオタマジャクシの群れを見つけました。

ですが、たしか5月初旬にみにいったところ、2か所ともオタマジャクシ、もしくは豆カエルを見つけることができませんでした。

たしか去年や一昨年も①、②ともカエルの卵→オタマジャクシまでは見かけますが、その後は見かけなくなるという感じでした。

ところで②にいたオタマジャクシですが、(坂本さんには叱られるかもしれませんが)実は4月初旬に捕まえてうちの水槽で飼いました。5月中頃からぽつぽつ豆カエルになり、5月22日に、光が丘公園の捕まえた場所に豆カエルたちを逃がしました。逃がすときに確認したら20匹ほどいて、うち1匹は死んでしまっていました。

## 赤塚トンボ池のオタマジャクシその後

### 散歩に来た人の話(5月3日)

親子が池の柵の中に入ってオタマジャクシをたくさん取っていった。それからカルガモが来て盛大に食べていたけど、まだいますか。

### 散歩に来た人の話(5月?日)

オタマジャクシをたくさんとっていく人がいたよ。

4月24日にはオタマジャクシがたくさん泳いでいたが、雨で増水しカルガモが来て漁っていました。3日に1匹だけ確認。その後生き残りは見当たりません。

公園の池のオタマジャクシは、カルガモに見つかれば食べられる。人がとってきて家で飼われることも多いらしい。・・そしてカエルになったらいなくなっちゃった、ことも多いでしょう。カエルは生きた餌しか食べません。1cmの豆ガエルが生きていけるような自然がある場所だったらいのですが・・・

カエルが安心して繁殖できる場所は今や庭や学校のピオトープだけか。私たちが守っているトンボ池は、毎年カルガモに見つかるので、オタマジャクシ達には大きな池なのでしょう。

## トンボ池の周りの草むら

トンボ池は出来て20年、トンボが産卵してヤゴになり飛び立ち、カエルがオタマジャクシになって赤ちゃんガエルになっていく。小さい野生の生き物の為に人間が勝手に作ったのですが、自然は「ああすればこうなる」という人間の思惑通りには行かない事ばかりです。

ザリガニの強かさに驚き、カルガモのヘラのような嘴でオタマジャクシが全滅し、今年も赤ちゃんガエルにはなれませんでした。

現在のトンボ池はザリガニがなるべく繁殖しない様に水を浅くしています。水をたえた池の方が見た目は良いといわれていますが、強いザリガニに少しでも反撃したくて水を浅くしています。

4月24日トンボ池の周りの草むらの観察会をしました、トチノキの実生の大きな葉が目立ちます。柵の向こう側に大きなトチの木があって毎年実を落とすのでしょうか。

池の裏の水路側にムラサキケマンの花がすこし前に咲いていましたが今日は種子になっています。虫こぶもついています、ムラサキケマンの種は面白くてパチンと弾けて黒い小さい種子が飛び出してきました、パチパチと種子が弾けるのを楽しみました。

大きな石の側にはエビネの花が咲いていて毎年楽しませてくれます、自生かどうかは分かりませんがトンボ池では一番華やかな春の花です。

ヤエムグラが大量に生えていて小さい地味なムラサキ色の花がすこし前に咲いていた様に思います、5月の中頃には倒れて枯れかかっていました。

他にはヤブニンジンの花を上から見た様な白い花、ヤブジラミも生えていて白い地味な花、

バッタ広場でも生えていて秋にはトゲトゲの実を付けてズボンや靴下にヒツキムシとなりなかなか取れません。

とんぼ池のまわりは時々ササカリなどしていますが、野草の草原になっていて小さい地味な花が多くて見分けるのは大変です、自然を楽しむ時、良く見て覚える事も大切だとは思いますが、私はなるべく若葉や春の緑を楽しみたいと思います（瀬田政江）。

### トンボ池の様子

トンボ池に入る湧水量を減らしています。池が小さくなり、橋の右側の池が干上がっています（大雨が降ると満水になる）。橋の左側から干上がった右側に水がしみ出し、そのしみ出しにチョウチョ（クロアゲハやアカボシゴマダラ）が吸水に来ます。釣巻さんによると栄養を補給しているのだそうです。そして干上がった池に植物が生えてきました。植物の生長は早い。このままだと池が草地になるか??。



5月22日、池の周りはドクダミが満開できれいです。ところで、ときどき池の表面に黄色い油膜が浮いています。汚くて嫌ですね。気温が上がると発生する植物性プランクトンです。

## 「ミツバチを飼って分かったこと、感じたこと」(その4)

ぶんぶんいたバチ代表 新井 康之

今回は自然観察者の立場から養蜂について考えてみました。

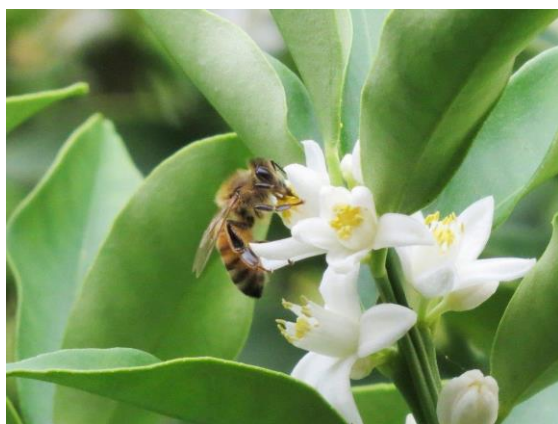
### 4 養蜂は環境にやさしいか？

#### 1. ミツバチは環境指標生物

ミツバチは環境指標生物といわれています。環境の変化に敏感で、その影響を受けやすい生き物ということです。その有名な例が「蜂群崩壊症候群」です。前回の号でミツバチは群れとして一つの生き物（超個体）のように行動するとお話ししました。この症候群は、群れを構成する個体が環境の影響を受けて群れとしてのまとまりを失う現象です。神経系の障害で集団での意思決定ができなくなるのが一因です。ミツバチたちは散逸していなくなり巣が維持できなくなります。



その原因物質がネオニコチノイド系農薬といわれています。ミツバチは蜂蜜生産だけでなく農産物の花粉媒介者（ポリネーター）も担っています。ハナバチ類がいなくなったら人は生きていけなくなるとも言われています。ミツバチは農業への貢献も大きいのです。欧州ではこのタイプの農薬使用を禁止している国が多くあります。



自宅のキンカンにきたセイヨウミツバチ

## 2. 環境指標生物は環境にやさしい？

一方、ミツバチは環境指標生物でも環境にやさしい生物ということを示しているわけありません。現在国内で飼育されている多くのミツバチは海外に由来を持つセイヨウミツバチです。イタリアン種をもとに品種改良された種といわれています。

ミツバチは昆虫ですが、法律上養蜂で扱うミツバチは家畜です。養蜂は外来生物を放牧しているイメージでしょうか。業者は花を追って巣箱を移動しながら蜜を採取するので遊牧といってもいいかもしれません。牛や羊の放牧ならば一頭一頭管理されますが、ミツバチでは一匹一匹管理するのは困難です。自然観察をされている方から見れば、外来生物を野放しで飼っている状況には疑問を感じるのではないのでしょうか。でも、国内でのセイヨウミツバチによる養蜂は長年の実績もあって環境への影響を取り沙汰されることは稀です。

幸いなのが、ニホンミツバチとは交雑しないことです。ニホンミツバチはセイヨウミツバチとは別種のトウヨウミツバチの亜種なので交雑しません。後述するマルハナバチでは外来種と在来種との交雑が問題を複雑化しています。欧州など地場のセイヨウミツバチのいる地域ではどのようにしているのか気になります。

ミツバチと競合する生き物は食物としての花粉、花蜜を競い合うハナバチ類になるでしょう。一番よく見かけるのがマルハナバチになりますが、自宅から250mはなれた場所でミツバチを飼い始めた頃から自宅で見かけるマルハナバチが少なくなりました。以前は自宅の床下通気口に入りする姿が見られました。床下の地中に営巣したのでしょう。

人に飼われたミツバチと野生のマルハナバチでは群れの規模が違いますので、共存が難しいでしょう。”種の多様性を守る”観点からも注視する必要があります。

## 3 ミツバチは野生化するでしょうか

ミツバチは分蜂という形で新しい群れが生まれます。その過程は前号に記しました。ニホンミツバチの分蜂群が街中で見つかってニュースになることもあります。セイヨウミツバチも群れの管理方法を誤ると分蜂群を野生に放ってしまうことがままあります（自然分蜂）。前号に書いたとおり私たち「ぶんぶんいたバチ」も例外ではありません。

人間の手を離れたセイヨウミツバチ群は野生化し定着しないのでしょうか。2018年夏に城北中央公園のサクラの木にセイヨウミツバチが営巣したことがありました。木の根元部分の洞です。ここはニホンミツバチが営巣することがありましたが、セイヨウミツバチが営巣するとは驚

きでした。でも分蜂した蜂群は回収されなければどこかで巣作りをしているはずです。(閉鎖空間でなく木の枝などに直接巣を作ることもあるようです。)その後経過を観察しましたが、冬に入る前に全滅し定着はしませんでした。

日本でセイヨウミツバチが定着しない理由になっているのが、天敵のスズメバチに対して対策を持たないことです。集団で戦うことがないので、一匹一匹戦って倒され死骸の山を築きます。そのはスズメバチの巣が最大になる秋です。冬越し前に群れのメンバーの大半を失い、巣内を暖められずに寒さで蜂たちは死んでいきます。

一方、ニホンミツバチは集団でスズメバチに向かい、蜂球で囲み熱死させることが知られています。何より巣を狙われたら「逃げるが勝ち」作戦で、引っ越してスズメバチの襲撃を免れます。



城北中央公園 セイヨウミツバチの巣

#### 4. ハナバチ類の野生化例

調べると日本国内でも小笠原諸島や沖縄島、西表島ではセイヨウミツバチ野外定着が確認されているそうです。オオスズメバチがいないのが理由ですが、温暖な気候も影響しているでしょう。本土でも地球温暖化に伴って小さな群れで冬越しできるようになると定着する懸念が出てきます。

外来の蜂が人為的に導入された後に国内で定着した例があります。温室内の果物や野菜の受粉用に導入されたセイヨウオオマルハナバチです。1992年に受粉への利用が始まりましたが1996年には野生化が確認されました。在来マルハナバチとの交雑もあって2006年には特定外来種に指定されたものの、国内の食糧生産を支えている昆虫だけに利用は禁止されていません。

この経過を見るとセイヨウミツバチはポリネーターとしての利用もあり、今後野性化が広がっても飼育が禁止されることはないでしょう。

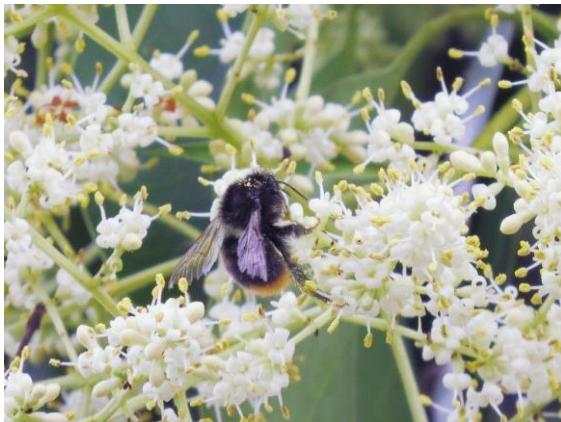
#### 5. 都市養蜂の適正規模

かつては養蜂に関して、素人はニホンミツバチ、営業家はセイヨウミツバチという区分があったように思います。養蜂に関するガイドブックでは、私が養蜂に関わった2014年にはニホンミツバチに関するものばかりでした。ようやく2019年に本格的なガイドブック「養蜂大全」が出版されました。その翌年には養蜂ノウハウ本とも言うべき干場先生の「ミツバチの飼い方」が出版され、今はセイヨウミツバチ養蜂に関する予備知識を得るには困らない状況になりました。それだけセイヨウミツバチで養蜂をする人が増えたという現れでしょう。

そもそも個人でセイヨウミツバチを飼って蜂蜜が年間20kgも採れたら処分に困るでしょう。ニホンミツバチは初期投資をあまりかけずに飼うことができます(ミツバチ群を手に入れるのが大変ですが)。これから年間数kgの蜂蜜を得る従来の方法が個人にはふさわしいと思います。幸



左：巣箱



右：トウネズミモチ開花とマルハナバチ（都民の森広場）

い私には「ぶんぶんいたバチ」の養蜂仲間がいるので、10人で1~2群のセイヨウミツバチを飼っています。この程度の規模で養蜂を楽しむのが、付近の環境にも健全なレベルではないかと考えています。

今年の春、セイヨウミツバチが活動を始める頃に自宅の庭でマルハナバチを見つけて、ほっとした気持ちになりました。ミツバチたちの行動域にあたる城北中央公園では「城北公園・四季の会」の観察会を定期的に行っています。ミツバチをはじめとしてハナバチ類の動向にも注視していきたいと思います(次号に続く)。

### 観察記録（2021年4月~5月22日）

トンボ池 オタマジャクシ、カルガモ、オニヤンマヤゴ3匹（水路）、テントウムシ幼、ヨコヅナサシガメ幼虫、サビキコリ、トラフコメツキ、クロウリハムシ、エサキモンキツノカメムシ、オオウンモンクチ



バ、ホシハラビロヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、他不明種

バッタ広場 クロボシツツハムシ、ナミテントウ、ナナホシテントウ、クビキリギリス、カマキリ幼、ハナアブ、ゴミグモ、コムシジ、アオスジアゲハ、カラスノエンドウにアブラムシ多・テントウムシ幼も多、クモ、ホソハリカメムシ、シマサシガメ？幼、アカサシガメ、アオオサムシ死骸

写真左はトンボ池に打ち込んだミズキの杭です。カワセミが止まれるように、ミズキの

枝を天地逆に打ち込みました。その杭から芽が出てきました。山田さんが発見。今後どうなるでしょうか。



# 活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は事務局 瀬田 090-1423-9894  
坂本 090-4618-1295

- 1 赤塚城址自然観察会とボランティア体験（第2日曜日）（どなたでも参加できます）  
赤塚城址周辺は自然が豊かなところです。コロナ禍でもできること、生き物達の環境を守る活動を体験しませんか。草や土に触って自然を感じてね。生きものは観察したら自然に戻します。30分程度ササ刈り等もやります（カマは用意します）。

6月13日（日） 10:00～11:30

7月11日（日） 10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費：無料（保険には加入していません）

もってくるもの：軍手、長袖、長ズボン。虫よけ薬、あれば図鑑など、

- 2 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の手入れ

6月26日（土） 10:00～11:30

7月24日（土） 10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

雨天の場合は中止（または翌日） 問い合わせは：事務局まで  
汚れてもよい靴と服装で。軍手（作業手袋）、

- 3 日暮台公園と樹林地の観察

6月6日（日） 10:00～11:30

7月4日（日） 10:00～11:30

8月1日（日） 10:00～11:30

日暮台公園前集合

## ●ビオトープボランティア大歓迎

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があつて楽しいですよ。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）お送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。

●身近な自然情報やご意見などをお寄せ下さい。